

都市再生整備計画 事後評価シート
本庄早稲田の杜地区

平成30年3月

埼玉県本庄市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	本庄市		地区名	本庄早稲田の杜地区			面積	154ha	
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	209百万円	国費率	40.00%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園事業(近隣公園)、地域生活基盤施設(情報板、耐震性貯水槽設置、消防施設整備)									
		提案事業	地域創造支援事業(埋蔵文化財調査、本庄早稲田の杜まちづくり計画策定)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(耐震性貯水槽設置、消防施設整備)	【耐震性貯水槽設置】事業の精査により削除。 【消防施設整備】提案事業へ振替→その後、他の事業に振替				事業の削除は、目標3「災害に強い安全安心な住環境の創出」に関係するが、他の手段や、他の事業による整備で対応可能のため影響なし。				
		提案事業	—	—				—				
	新たに追加した事業	基幹事業	—	—				—				
提案事業		地域創造支援事業(新田原通り線整備、新田原本田地区まちづくり計画策定)	【新田原通り線整備】事業の早期着手をはかるため。 【新田原本田地区まちづくり計画】土地区画整理事業の事業化に至っていない3地区の1つである新田原本田地区の区画整理に替わる整備手法を検討するため。				まちづくりの目標達成に向けプラスの影響はあるが、目標、指標は据え置く。					
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	地区内居住者数	人	1,044	H23	1,500	H28	1,945	○	あり	UR都市機構による土地区画整理事業が順調に整備完了したことや、市の関連事業により魅力のあるまちづくりが進んだことにより、居住者人口の増と繋がった。	—
指標2	公園等利用者満足度	%	50	H23	70	H28	—	—	なし	指標2で掲げた従前値を計測した当時の土地活用勉強会は、現在、存在せず、同様の計測が困難であるため、その他の数値指標として、当計画地区内の住民を対象に、基幹事業である近隣公園(マリーゴールドの丘公園)整備の満足度を計るアンケートを実施する。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	近隣公園(マリーゴールドの丘公園)整備の満足度	%	—	—	—	—	82.9	—	—	整備にあたっては、公園のコンセプトを、元々の丘の形状を活かした「眺望」「散策」「マリーゴールド等の花畑の鑑賞」「ピクニック」と位置づけて各施設の整備を行い、整備後にマリーゴールドやシバザクラの植栽やイルミネーションによる装飾など、丘の機能の有効的な活用を進めたことにより、高い満足度を得られる結果となった。	—
その他の数値指標2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
4)定性的な効果発現状況	<p>・平成29年11月に「こども青年会議所」の主権により、マリーゴールドの丘をイルミネーションで装飾した。点灯式において、参加者にアンケート集計を行った結果、マリーゴールドの丘を、本庄市を含む「こども地域」全体の魅力として認めることに多くの賛同をいただいた。このような、地域の資源に魅力を加えることで更に地域の価値が高まり、周辺からの評価を得ることで、地域のイメージアップに繋がることが確認できた。</p> <p>・予約制乗り合いバス「はにほん号(本庄南地域)」及び本庄駅南口から本庄早稲田駅北口をつなぐシャトルバス「はにほんシャトル」は、利用者数が増加傾向にあり、当計画の目標としている「活気に満ちあふれた街並みづくり」に寄与していると考えられる。</p>											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等
	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				—	
	住民参加プロセス	本庄早稲田の杜地区の一部である「新田原本田地区」の今後のまちづくり計画を策定するにあたり、公募によりメンバーを募集しワークショップを開催した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●	
持続的なまちづくり体制の構築	土地区画整理事業や当計画によるハード面の各種整備事業が完了した後、まちの価値・魅力を維持し、更に高めていくため、「本庄早稲田まちづくり活動勉強会」にて各種の活動・イベントを実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—	

様式2-2 地区の概要

本庄早稲田の杜地区(埼玉県本庄市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 北関東の拠点にふさわしい活気に満ちあふれた街なみと豊かな自然環境とが共生した孫子の代まで引き継げるまちづくり 目標1: 新たな息吹を感じさせるまちの魅力と活気の創出 目標2: 原風景を次世代へ継承する緑と歴史の香り漂う良好な生活環境の創出 目標3: 災害に強い安全安心な住環境の創出	地区内居住者数	1,044 H23	1,500 H28	1,945 H29
	公園等利用者の満足度	50 H23	70 H28	—
	近隣公園(マリーゴールドの丘公園)整備の満足度	—	—	82.9 H29
		単位:	H	H

○関連事業(都市再生機構)
本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業(赤枠のエリア内)

■情報板(案内サイン板)

■埋蔵文化財調査

■情報板(広域・周辺案内図)

○関連事業(早稲田大学)
早稲田リサーチパーク地区整備事業

■新田原通り線整備事業

■情報板(住居表示街区案内図)

○関連事業(本庄市)
消防施設整備

■まちづくり計画策定(●のエリア)

■近隣公園(マリーゴールドの丘公園)

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・施行者であるUR都市機構、埼玉県、本庄市、地権者が一体となり事業を推進し、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業は平成26年3月に換地処分を迎え事業完了となった。 ・近隣公園整備では、公園の主な機能の一つに、丘の上からの「眺望」と位置づけ、丘からの眺めを遮らないように配慮し、周辺の山並みへの「眺望」を確保することができた。 ・環境アセス法に基づく環境影響評価書に記載された環境保全措置に配慮し、生態系の保全措置(オオタカ)については「環境対策調整会議」を開催し、関係機関との協議・調整を図りながら事業を実施することができた。 ・環境影響評価書に基づき、オオタカの生息環境、採餌場の確保の検証するための事後調査が必要である。 ・新田原本田地区、東富田久下塚地区においては、ワークショップを開催することにより、今後のまちづくりの計画について、地権者やまちづくり協議会の委員の多様な方々の意見を伺うことができた。今後は、関係機関との協議を進め、関連する都市計画の変更・決定が必要である。栗崎地区については、まちづくり協議会による検討やワークショップの開催などを進め、地元との合意形成を図ることが必要である。 ・土地区画整理事業等による基盤整備が完了した後の、公共空間の管理や、更なるまちの魅力の創出の仕組みづくり等、ソフト面に対する取り組みへの対応について課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業施行地区である本庄早稲田駅周辺地区には、地区計画の制度により、建築物の外壁の色彩を制限することで周囲の景観との調和に配慮し、一部地区の建築物の高さの最高限度を定め丘の上からの眺望を確保している。今後についても、地区計画制度により、今ある風景の保存を図る。また、住民を対象とする啓発活動により、地域資源の保存・継承・育成を図る。 ・これまで市が事務局となり、「本庄早稲田まちづくり活動勉強会」が、まちの清掃やイベント実施など、まちの魅力の創出のための様々な事業を行ってきた。今後は、地域の住民・地権者や企業が自主的に活動し、様々な活動を行っていただけるように、組織の立ち上げや資金面についての支援を進めていくことを検討する。 ・土地区画整理事業の事業化に至っていない3地区は、地域の課題や現状に対応したまちづくりの計画を策定し、土地区画整理事業に替わるまちづくりを進める。地区により、進捗の度合いは異なるが、順次、必要な都市計画の変更・決定をすすめ、防災上安全な市街地整備を進める。 ・マリーゴールドの丘公園については、満足度調査で寄せられた意見を踏まえ、丘の形状を活かした植栽や装飾など公園の特徴を考慮した利活用の方法を検討し活用を図ることで、更なる魅力と活気の創出に努める。